

今、墓地の管理で困っていること

◆流出が止まらない土砂

近年は異常気象が続ки、干ばつと大雨が交互に襲うようになりました。古いお墓は排水の仕組みが十分ではなく、地面の土が流出しやすい状態です。大雨のたびに排水溝から水があふれ、通路や階段が川のようになることも珍しくありません。そのため通路がU字型にえぐれ、歩行にも支障が出ています。

毎年、土砂を運んで固める作業を行っています。高所への大量搬入はほぼ人力に頼らざるを得ず、平地の道路補修に比べて3倍以上の費用がかかります。土の流出そのものが異常気象に起因するため、排水の仕組みを少しずつ改善していくしかなく、そのための資金も対応に必要です。

「り地区」（旧名号塔の西側）では地下水が湧出しており、近隣のお墓をお使いの方にはご不便をおかけしていることと思います。ただ、複雑な地下水の流れに手を加えれば、大規模な土砂崩れを招く恐れがあります。予算の制約もあり抜本的な対応が難しいため、恐縮ながらお墓の移転をお願いせざるを得ません。

◆増え始めた倒木

温暖化や害虫の影響と見られますが、大木の立ち枯れが墓地のあちこちで見られるようになりました。強風で枯れ木が倒れる事例も起きています。むやみに伐採すれば、木の根に支えられていた土壁が一気に崩れかねません。

お墓の多くが樹木の下にあるため、伐採の前にお墓を一時的に移すか、しっかりと養生したうえで足場を組み、上部から少しずつ切り進める必要があります。クレーンなどの重機は搬入できず、作業はすべて手作業となるため、費用もかさみます。これまでの実績では、直径30cmほどの木を1本切るのに約50万円を要しています。小さな木は比較的切りやすいのですが、大木はあえて倒してから片付けたほうがコストを抑えられる場合もあることがわかってきました。切った木材はトラック数台分にのぼり、処分場への搬入費も大きな負担となっています。

◆費用のかさむゴミ処理

墓地の雑草や枝、落ち葉の処理は、30年前から専門業者に委託しています。かつては刈った草を7か所に集めて墓地内で焼却しており、費

用はごくわずかで済んでいました。

ところが条例で野焼きが禁止されたため、現在はトラック40台分もの草木を費用をかけて処分場へ運ばなければなりません。運搬・仕分け・処分の費用は、清掃費全体の半分を占めるまでになりました。

加えて近年は、処分場への持ち込み料金が仕分け費用の上昇により3割ほど高くなり、最低賃金の上昇に伴う仲介業者の費用も重なって、30年前と比べ清掃費は5割も増加しています。お盆やお正月の後片付け、日々のゴミ処理、剪定や害虫駆除にも人手が必要なため、人件費の上昇が重くのしかかっています。

◆増加する電気・水道代、そして通信費

お墓の管理には電気と水道が欠かせません。主な用途は、夏場の廟堂のエアコンと、お墓を洗う水を送るための大型ポンプです。電気代・水道代は、当初と比べておよそ3倍に膨らんでいます。

管理部では毎年、使用料を郵便振込で集めているほか、寺の便りや行事案内を約1000人の方へお送りしています。郵便料金の値上げ、人件費の上昇、印刷代の高騰が重なり、管理・運営にかかる固定費は年々増加する一方です。